

第2回外国人介護人材受入れの在り方に関する検討会 資料

医療法人財団善常会
老人保健施設シルピス大磯

1. 【概要】

*事業所の概要

施設名：老人保健施設シルピス大磯（病院併設型老人保健施設）

所在地：名古屋市南区戸部町3-55

入所定員：103名 通所定員：40名

職員数：

職種	員数	職種	員数
医師（管理者含む）	2名	管理栄養士	2名
看護師	14名	理学療法士	8名
介護職員	40名	作業療法士	3名
薬剤師	1名	言語聴覚士	2名
支援相談員	3名	事務員	3名

*EPA介護福祉士候補者受入状況 現在2名（平成25年6月受入）

EPA介護福祉士受入状況（計2名） 1名（平成22年6月受入）
（合格年月：平成25年3月）
1名（平成23年6月受入）
（合格年月：平成25年3月）

2. 【業務遂行状況】

1) 勤務年数や日本語の状況、学習状況等を踏まえた業務遂行の状況

（1年目）

- ・日本語能力を更に高め、今後の学習に必要な十分な能力を養う。
（介護福祉士受験対策講座（大阪）に週1回受講）資料1参照
- ・研修責任者の支援を受けながら自己学習スケジュールを策定
- ・標準的な教科書の準備（講座の教室で準備）

① 介護現場に必要な日本語能力の習得「話す」「聞く」「読む」「書く」ができ、候補生がコミュニケーションをとることが出来るようになる。

- ・利用者との会話
- ・食事、入浴、排泄などの介護場面での利用者への声かけ

- ・同僚や上司との業務に関する報告、連絡、相談などのやり取り
 - ・申し送りでの情報収集、報告
 - ・利用者との家族との会話
 - ・緊急時の対応や状況説明
 - ・電話の受け答え
- ② 語彙力
- ・介護現場での会話や読み書きで「語彙力」の習得
- ③ 漢字力、カタカナ語
- ④ 適切に日本語を使い分ける力
- ⑤ 施設内外でテレビ、新聞等から情報が入手できる。

(2年目)

- ・施設内の文書（カルテ、ケアプラン、申し送り、記録等）から情報が入手できる。
 - ・利用者の担当を持ち利用者ニーズ把握ができる。
 - ・業務別の仕事分担ができ報告、連絡、相談ができる。
 - ・国家試験受験のための日本語能力、専門用語の取得（国際事業団の支援するプログラムに沿って勉強）
- ① 介護現場
- ・基本的介護技術の実践から応用までを習得
 - ・安全で、個人の尊厳に立った自立支援への介護が行える。
 - ・利用者のアセスメントができる。

(3年目)

- ・利用者とのやりとりから適切なニーズの把握ができる。
 - ・業務において自立的に報告、連絡、相談ができる。
- ① 介護現場
- ・部分的に指導を受けながら介護過程の展開ができる。
 - ・自立して、利用者に応じた介護技術が適切にできる。
 - ・利用者・家族の健康管理ができる。

(4年目)

- ・国家試験のための日本語能力、専門用語のマスターにより合格を目指す。
- ・筆記試験の過去問題に多数取り組み速読力を高める。
- ・模擬試験により弱点を把握し、語彙を増強する。
- ・時間配分等、受験技術の獲得

2) 日本人より長けている業務、なかなか日本人のようにはいかない業務

- ・ケア提供においてその性格からか利用者に常に優しく接することができるが、家族への説明や療養者・家族から聞かれた事項に対して回答ができない。また、業務における電話による聞き取り・伝達は極めて困難である（ヒヤリングの問題やどの様に説明していいかわからないことによると思われる）。
- ・また、会議や委員会への参加が上記理由により困難なケースがある。

3) 任せられる業務内容とそうなったおよその時期

資料2 参照

4) EPA 介護福祉士候補生がいる場合の勤務シフト

- ・EPA 候補生として迎え入れた時から業務内容を日本人介護士と同様の指導にあたっているが、当施設の EPA 介護福祉士候補者は毎週特定曜日に介護福祉士国家試験受験対策講座に行っていること、国際厚生事業団による集合研修があること等への勤務配慮を要します。
- ・EPA 候補生が夜勤シフトに入るようになった場合、緊急時等の対応に不安があり、有事の場合の日本人介護士による待機体制を整備している。また、原則 EPA 候補生同士の夜間勤務はシフトとして組んでいない。

5) 日本語の習熟度と業務の習熟度

- ・業務を習得する事によりその相乗効果にて日本語能力が上がる傾向にある。しかしながら、各個人によっては日本語能力が高いが介護技術が余り高くない、逆に日本語能力はそれ程高くはないが介護技術の向上が顕著に見受けられるケースもある。

3. 【教育指導体制】

- ・日本人と同様の新人研修を実施
- ・上記新人研修のチェックリストに沿ってリーダークラスが指導
⇒ 新人研修終了後は、日本人介護士と同等の勤務（通常勤務の中での指導）を行い、介護技術を身につけてもらう。
- ・国家試験対策は日本人と集団学習（過去問題・予想問題を繰り返し行う等）

4. 【受け入れによる影響】

- ・利用者及び家族が外国人に対する先入観を持っている方が少なくなく、EPA 介護福祉士若しくは候補生から介護サービスの提供を受ける事に対して拒否がある。また、施設側に対しても家族から安価な賃金で労働力を確保していると思われる、言葉、業務についてその不安を受ける事がある。

- ⇒ 利用者・ご家族に向け外国人介護士の学歴及び経歴等を説明したり、文書にして理解していただく。
- ・業務内容によっては理解力に欠けることがあり、ケースによってはその都度別の日本人介護士の介入が必要となり業務負担が増える事がある。
 - ⇒ 常に指導者のもとで業務を行い、その都度理解してもらい業務についている。
- ・自己主張ははっきり言われる傾向があり、他のスタッフの不平不満の要因となる場合がある。
 - ⇒ マンツーマンで話合いその理解と施設側もある程度要望を聞き入れ温度差を軽減している。
- ・外国人介護士の人数の増加により、少人数であった時には見られない勤務中の母国語での会話が見受けられこのことが家族・職員との乖離の原因にもなっている。
 - ⇒ 業務中は日本語で話す様徹底し日本人介護福祉士合格者及び経験年数の長い職員に聞く様指導している。
- ・EPA 介護福祉士候補生として既に2名は国家試験に合格をしており、日本人介護士で介護福祉士資格未取得者に対して大きな刺激となっている。
- ・EPA 介護福祉士は現状として戦力となっている。

5. 【トラブル等の状況、その後の解決に向けた対応策について】

トラブル等については現状として特段ありません。

以上

介護研修プログラム（例）

医療法人 財団善常会

	時期	1年目	2年目	3年目	4年目
項目	内容	2013.07 - 2014.06	2014.07 - 2015.06	2015.07 - 2016.06	2016.07 - 2017.01
筆記試験	到達目標	○日本語能力を更に高め、今後の学習に必要な能力を養う。 ○2年目からの筆記試験対策の計画作成・準備を行う。	○自己学習を中心に定期的な指導を受けながら、出題基準に沿った学習を計画的に行う。	○国家試験(筆記)過去問を通して試験に慣れて、国家試験合格を目指す。	○国家試験(筆記)受験前の総仕上げ ○繰り返し筆記試験問題をこなすことにより、慣れ、国家試験合格を目指す。
	学習内容	・研修責任者等の支援を受けながら自己学習スケジュールを策定 ・標準的な教科書の準備(施設の常備用も含む) ・学習場所の準備	<学習科目> ・社会福祉概論 ・老人福祉論 ・レクリエーション活動援助法 ・老人、障害者の心理 ・医学一般 ・介護概論 ・介護技術 通信教育、養成施設等の一部科目の受講、聴講等を活用する場合、研修責任者等が学習の進捗状況を定期的に把握しながら支援	<学習科目> ・障害者福祉論 ・リハビリテーション論 ・社会福祉援助技術(演習を含む) ・家政学概論 ・精神保健 ・形態別介護技術 通信教育、養成施設等の一部科目の受講、聴講等を活用する場合、研修責任者等が学習の進捗状況を定期的に把握しながら支援 ・国家試験過去問の解答の練習	・国家試験過去問の解答の徹底した練習 ・模擬試験受験
実技試験	到達目標	○研修責任者等指導を受けながら、就労に必要な基本的介護技術の基礎を習得する。 ○指導を受けながら、介護の原則である安全、自立支援、個人の尊厳を理解する。	○部分的に指導を受けながら、基本的介護技術を実践する。○部分的に指導を受けながら、安全で、個人の尊厳に立った自立支援への介護が行える。○指導を受けながら、介護の原則を踏まえ、利用者のアセスメントができる。	○部分的に指導を受けながら介護過程の展開ができる。 ○自立して、利用者に応じた介護技術が適切にできる。 ○介護の原則を踏まえ、利用者・家族の健康管理ができる。○筆記試験の速読練習問題に取り組む。	○国家試験(実技)受験前の総仕上げ
	学習内容	・介護の原則の理解 <基本的介護技術> ・立体、体位変換 ・移乗動作 ・食事 ・排泄 ・保清 ・衣服の着脱 ・整容	・基本的介護技術の実践 ・利用者のアクセシビリティの学習会の参加、練習 ・ヒヤリハット報告会の参加 ・地域の訪問介護員養成研修2級課程の受講	・介護過程の展開の学習会の参加	・職場等の受験対策講座受講 ・実技試験免除のための介護技術講習の受講、修了
日本語	到達目標	○施設内の表示、案内文等の読解ができる。 ○日報・週報等が平易な日本語で書け、コメントが読める。 ○利用者とのやり取りがスムーズになる。 ○指導を受けながら、報告連絡相談ができる。 ○国家試験受験のための日本語能力取得	○施設内の文書から情報が入手できる。 ○利用者とのやり取りからニーズ把握ができる。 ○準備をした上で報告連絡相談ができる。 ○指導を受けつつ、介護教材の読解練習ができる。 ○国家試験受験のための日本語能力・専門用語の取得	○施設内外でテレビ、新聞等から情報が入手できる。 ○利用者とのやり取りから適切なニーズ把握ができる。 ○自立的に報告連絡相談ができる。 ○筆記試験の速読練習問題に取り組む。	○国家試験受験のための日本語能力・専門用語のマスターにより合格を目指す。
	学習内容	・研修担当者とのOJTでの学習 ・日本語学校参加等による学習 ・地域の日本語ボランティア教室の活用 ・オンライン日本語学習ツールの活用 ・施設内サークル活動への参加	・日本語学校、大学等の日本語コース受講(1級レベル) ・オンラインで簡単なニュース等の読解 ・国家試験対策を含んだ日本語自己学習の開始	・地域の国際交流協会等の企画への主体的参加 ・オンライン上の必要な情報を読み取る ・筆記試験の文体に慣れる ・類似した漢字の整理をする ・国家試験対策を含んだ日本語専門用語の自己学習の開始	・筆記試験の過去問題に多数取り組み速読力を高める ・模擬試験により弱点を把握し、語彙を増強する ・時間配分等、受験技術の獲得
職場への適応促進、日本の生活習慣等	到達目標	○施設の特徴、利用者の生活・習慣を理解する。 ○チームの一員としての役割を理解し、就労の基本を習得する。○日本の生活になじみ、自分で心身の健康管理ができる。	○業務標準の理解 ○施設のチーム員としての役割を自覚し、業務することができる。 ○社会人としての基本を習得する。 ○地域における施設の役割・各種事業を把握する。	○チームワークに貢献し、メンバーシップを発揮する。 ○担当する業務の進め方を理解し、自律的に業務標準を確実に実践する。 ○非定型的な業務の理解	○業務の改善等に主体的に参画し、リーダーシップを発揮する。
	学習内容	・施設内各種研修の受講 ・施設の特徴の理解 ・接遇セミナーの参加 ・入居者疑似体験 ・施設、地域のイベントの参加 ・健康相談の参加	・ケア会議の参加 ・電話対応、訪問の来客対応マナーの練習 ・防災訓練の参加 ・地域のエコマップ作成	・緊急対応研修の受講 ・転倒予防の学習会の参加	

EPA業務内容及びその時期

資料2

1期目
2期目
3期目

国家試験の基礎知識の習得
介護福祉士の役割や機能の理解
ここからだのしくみ 総合問題
知識技術が総合的に必要である事の理解
学習教材 学習支援 集合研修
各種模擬試験の受験と活用

人間と社会 人の生活のあり方やその変化、福祉と関係の理解
介護福祉士の役割や機能の理解
学習教材 学習支援 集合研修
過去の国家試験問題の活用

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013						日勤業務	早・遅番業務指導 夜勤業務指導		日本の介護士と同等の介護業務		担当居室を持ちケア計画書の作成	カンファレンス参加
2014									介護業務及び毎週木曜日の介護福祉士受験に向けての勉強			
2015									介護業務及び毎週木曜日の介護福祉士受験に向けての勉強と集合研修			
2016									介護福祉士試験		実技試験	